魅力発信！えひめ農業

令和8年9月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、9月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町４丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
９月のトピックス５選 3
水稲の直播・再生二期作栽培を学ぶ研修会を開催 3
「一次産業女子交流研修会 in 東予」を開催し、女性農業者等の相互交流を促進 3
食育教室で雑穀及び郷土料理紹介 4
南予地域女性リーダー研修会～県内外の女性農業者が一堂に会し交流を図る～ 4
歴代の就農研修生・卒業生が集う交流会を初開催 5
えひめ農業 6
■東予地方局地域農業育成室 6
有害鳥獣捕獲に向けて先輩猟師と学ぶ 6
農福連携でさといも収穫の労働力確保を図る 6
バラの鉢植え体験を通した花育活動を支援 7
交信かく乱剤導入による「かき」フジコナカイガラムシの発生抑制効果の実証 7
令和９年産の麦作に向けた講習会を開催 8
■東予地方局地域農業育成室四国中央農業指導班 8
農業女子が「食と農」に関する出前授業を開催 8
■東予地方局産地戦略推進室 9
東予の花き・花木の魅力を発信する壁飾りづくり講習会を開催 9
新規栽培者を対象とした花木の研修会を開催 9
■今治支局地域農業育成室 10
さといも「優良種苗新増殖技術（親芋直接採取増殖法）」実証圃において収量調査を実施 . 10
いちご育苗後期の肥培管理と病害防除について巡回指導 10
効果的な鳥獣害対策に取り組むモデル集落の育成 11
農業生産法人（株）ファーム咲創が農福連携に取り組む 11
■今治支局地域農業育成室しまなみ農業指導班 12
かんきつ栽培講習会を開催し、収穫期に向けた適正管理を指導 12
新規就農者がブランド柑橘「瀬戸の晴れ姫」の栽培に初挑戦 12
温暖化に対応したレモンの栽培管理を学ぶ 13
■今治支局産地戦略推進室 13
低コスト環境測定機器による実証を開始 13
バターナッツカボチャの追肥による収量の比較調査 14
■中予地方局地域農業育成室 14
労働力確保の取組を生産者へ推進 14
枝物の安定生産に向けた生産者等への集団指導 15
研修生が就農に向けた資質向上を図る 15
いちご生産者が花芽検鏡の技術を学ぶ 16
女性農業者が農業機械や柑橘栽培技術について学ぶ 16

農業女子グループが地域イベントに参画 17
中島青年農業者が他地区の仲間と交流 17
■中予地方局地域農業育成室伊予農業指導班 18
女性農業者の感性を活かした商品開発と経営参画支援 18
認定農業者がミョウガ培地再生工場を視察 18
■中予地方局産地戦略推進室 19
そらまめ産地強化に向けた令和９年産への取組を開始 19
AI で土壌水分計文字盤を読み取りデジタルデータに変換 19
■南予地方局地域農業育成室 20
伊達柿の収穫支援を広げるため農福連携研修会を開催 20
認定農業者組織が鳥獣害対策に係る研修会を開催 20
■南予地方局地域農業育成室鬼北農業指導班 21
安価なハウスサイド自動巻上機の導入による環境制御技術の実証 21
ラジコン防除ロボット実演会を開催 21
■南予地方局地域農業育成室愛南農業指導班 22
郷土料理の調理技術伝承に向けて 22
青年農業者が省力化・多角的経営に向け事例調査を実施 22
■南予地方局地域戦略推進室 23
来年のうめ安定生産に向けて夏季管理を徹底！ 23
■八幡浜支局地域農業育成室 23
かんきつの日焼け軽減効果を確認 23
■八幡浜支局地域農業育成室大洲農業指導班 24
農事組合法人やさらいの新たな営農計画策定に向け、関係者が一致団結 24
青年農業者が学び合う現地交流会を開催 24
■八幡浜支局地域農業育成室西予農業指導班 25
新規就農者の早期定着に向け、スキルアップをサポート 25
西予いちごの定植始まる 25
■八幡浜支局産地戦略推進室 26
篤農家から栽培技術を学ぶ～「媛小春」秋季現地研修会を開催～ 26

９月のトピックス５選

標　題	水稲の直播・再生二期作栽培を学ぶ研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 16 日	場所	県西条第二庁舎 西条市及び新居浜市内各地	
指導対象	新規就農者、水稲生産者等（49 人）	連携機関	JA（周桑、えひめ未来）	
普及指導内容	○水稲の新技術を学ぶ、第５回東予担い手ステップアップ研修会を開催した。 ○室内研修では、水稲の直播及び再生二期作栽培の現地技術実証の状況、普及に向けての課題及び栽培管理のポイントについて説明した。 ○現地研修では、ドローンによる湛水直播、節水型乾田直播及び再生二期作の実証ほ場において、栽培に取り組む生産者が栽培管理を説明し、室内研修の内容を確認しながら参加者と意見交換を行った。			
結果と今後	○参加者からは、直播の水管理や雑草防除体系、再生二期作の施肥方法や収穫時期等について活発に質疑が交わされ、新栽培技術への理解と関心の深まりがうかがわれており、来年度において直播導入を検討する声も聞かれた。 ○１月開催の第８回講座では、直播栽培の普及に向けた GPS レベラー等のスマート農機の実演を予定しており、今後も研修会を通じて農業者の資質向上を支援する。			


再生二期作実証の説明を聞く参加者


乾田直播実証の説明


実証ほ場での意見交換

標　題	「一次産業女子交流研修会 in 東予」を開催し、女性農業者等の相互交流を促進		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 29 日	場所	さいさいきて屋	
指導対象	愛媛県一次産業女子ネットワーク さくらひめメンバー（21 人）	連携機関	JA おちいまばり 農政課農地・担い手対策室	
普及指導内容	○当室は、「一次産業女子ネットワークさくらひめ」のメンバーを対象に、経営能力の強化とリーダーシップの向上を目的とした交流研修会を開催した。 ○東予で各地域のさくらひめメンバーが一堂に会するのは初めての取組で、経営能力向上に SNS を有効活用している宇和島市の農業者の講演、メンバーが生産する農畜産物の活用や可能性を見出すため、松山市のシェフによる料理の実演、メンバー同士の活動紹介や情報交換を実施し、相互の交流促進を図った。			
結果と今後	○参加者からは、「他地域の農業女子と交流ができ、よい刺激になった」「生産する農畜産物の活用をプロの視点から学ぶことができ、生産に対する意欲が高まった」等の感想が寄せられた。 ○会は好評のうちに終了し、参加者から継続開催を望む声が聞かれたことから、当室は関係機関と連携し、次年度以降も女性農業者等の育成と交流促進のため、実施する予定である。			


SNS 活用の講演


シェフが調理した料理を試食


交流会で情報・意見交換

標　題	**食育教室で雑穀及び郷土料理紹介**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和８年９月 15 日	場所	久万高原町久万	
指導対象	町内幼稚園児及び保護者、幼稚園教諭（24 人）	連携機関	久万高原町生活研究協議会、町保健センター、子ども家庭センター、幼稚園	
普及指導内容	○雑穀の生産振興と需要の拡大を目的に、同生活研究協議会の食文化継承・普及活動を支援した。 ○町内の幼稚園児及び保護者等を対象にした食育教室では、当班から、雑穀やその活用について紹介するとともに、「たかきびご飯」の試食及び「たかきびだんご」の調理実習（親子で体験）を行った。			
結果と今後	○「たかきびご飯」の試食では、「食感がおもしろい」と好評であった。 ○親子での「たかきびだんごづくり体験」では、きな粉をかけて試食を行い、雑穀郷土料理への理解を深めた。 ○今後、町内他地区の幼稚園や小学校を対象とした食育教室を予定している。			





たかきび団子づくり体験



たかきび団子のきな粉かけ

標　題	**南予地域女性リーダー研修会 ～県内外の女性農業者が一堂に会し交流を図る～**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月８日	場所	企業組合津島あぐり工房（宇和島市）	
指導対象	女性農業者・関係者（約 60 人）	連携機関	宇和島市、農地・担い手対策室、中国四国農政局愛媛県拠点	
普及指導内容	○女性農業者の経営力向上と相互交流を図ることを目的に、「南予地域女性リーダー研修会」を初めて開催した。 ○研修会では、企業組合津島あぐり工房代表理事の山下由美氏による基調講演、地産地消メニューの試食、柑橘の新たな活用法を検討するワークショップ等を実施した。			
結果と今後	○県内外の女性農業者及び関係者約 60 人が参加し、地域を超えた意見交換と交流が図られた。参加者からは「県外の女性農業者の意欲的な姿勢に刺激を受け、今後の活動意欲が高まった」との声が多く寄せられた。 ○今後も女性農業者の活動を支援し、地域農業の活性化に資する取組を推進する。			





左：参加者一同
右：講演に耳を傾ける参加者

標　題	**歴代の就農研修生・卒業生が集う交流会を初開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月２日	場所	八幡浜支局	
指導対象	研修生(２人)、研修卒業生(13 人)	連携機関	JA にしうわ、NOSAI えひめ、八幡浜市、伊方町	
普及指導内容	○JA にしうわ管内では、平成 26 年度から新規就農者研修制度を実施し、現在約 40 人のＩターン就農者がかんきつ生産者として活躍している。 ○当室は、研修卒業生等のネットワーク強化と経営力向上を図るため、１～13 期までの全世代（現役研修生含む）が一堂に会し、初の試みである「～明日へつなげる～にしうわ研修生合同交流会」を開催した。 ○交流会では、優良事例発表や担い手支援制度に係る説明のほか、研修卒業生らに関係機関職員も加わり、今年産かんきつの生育状況や収穫労力の確保方法、上手な地域との関わり方など、多様な話題について活発に意見交換した。			
結果と今後	○参加者からは、「これを機に卒業生同士のつながりを大切にしていきたい」「本交流会の継続開催を望む」といった声が寄せられ、Ｉターン就農者らの活動意欲の向上や連携強化につながった。 ○当室では、次年度以降の継続開催も含め、Ｉターン就農者らが地域に根ざし、安心して農業経営に取り組めるよう支援を行っていく。			





左：研修生と卒業生の意見交換
右：担い手支援制度を学ぶ研修生と卒業生

えひめ農業

標　題	有害鳥獣捕獲に向けて先輩猟師と学ぶ		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 30 日	場所	西条市役所、西条市飯岡	
指導対象	西条地区イノシシ学習会メンバー（３人）	連携機関	西条市	
普及指導内容	○有害鳥獣の捕獲を目指す若手農家グループを対象に、先輩狩猟者の捕獲技術等を学びながら、自らも実際に箱わなを設置する学習会を開催した。 ○当室では、県の「青年農業者等わな猟スキルアップ実践事業」を活用して若手狩猟者のグループを結成し、捕獲技術を向上させるための支援を行っている。			
結果と今後	○学習会では、先輩狩猟者から、捕獲ポイントの選定や餌付けを段階的に行うこと等について説明があった後、実際に箱わなやセンサーカメラを設置した。 ○今後、センサーカメラの映像等から効果的な捕獲方法を同グループと検証するなど、若手狩猟者の捕獲技術の向上を支援する。			



捕獲制度等の説明



わな設置のポイント説明



使用する資機材の紹介

標　題	農福連携でさといも収穫の労働力確保を図る		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 16 日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象	さといも栽培農家（３法人、６戸） Ｂ型福祉事業所（８事業所）	連携機関	JA 周桑、管内福祉事業所	
普及指導内容	○農福連携による労働力確保を推進するため、管内の福祉事業所と JA 周桑里芋部会員を対象とした農福連携取組説明会を開催し、福祉事業所（８事業所）、農業法人（３法人）及び農家（６戸）が参加した。 ○当室は、県内における農福連携の取組等について情報提供を行い、作業支援までの流れやさといも選別に関する注意点、本年度における作業委託料金の値上げ等を説明した後、生産者側と福祉事業所側との意見交換を促した。			
結果と今後	○各生産者は、派遣職員を受け入れる福祉事業所を決定し、両者間で作業時期や必要人員等を協議した。 ○管内における農福連携は、平成 30 年のマッチング開始以降、農家側からの作業依頼が増加傾向にある。 ○作業を受託できる福祉事業所が限られる中、当室では両者が充分に協議したうえで継続した取組となるよう、引き続き支援する。			



農福連携の取組を説明



里芋選別における注意点の説明



農家と福祉事業所の協議

標　題	バラの鉢植え体験を通した花育活動を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 15 日、17 日	場所	西条市立楠河小学校・禎瑞小学校	
指導対象	西条地区青年農業者連絡協議会会員（延べ９人）	連携機関	西条市、西条市教育委員会	
普及指導内容	○青年農業者協議会は、花育活動の一環として、楠河小学校の児童(78 人)及び禎瑞小学校の児童(11 人)を対象に、バラ（品種：グリーンアイス）の鉢植え体験を実施しており、当室はその運営を支援した。 ○バラの鉢植えが初めての児童が大半であったため、トゲに注意することのほか、苗の植え方、土を入れる量や今後の管理方法等を指導した。			
結果と今後	○児童からは、「トゲが多くて作業が難しかった」という感想があった一方、「しっかり日光に当てて育てていきたい」「花がしおれないようにお水を与えてあげたい」などの感想があり、花育活動を通して生き物を大切にする姿勢がうかがわれた。 ○同協議会では、花や緑に親しみ育てる機会を通して、優しさや美しさを感じる気持ちを育むことを目指して取り組んでおり、当室は今後も花育活動を支援していく。			



協議会の活動紹介をする会員(9/15 楠河小)



バラの定植指導(9/15 楠河小)



今後の管理を説明する会員(9/17 禎瑞小)

標　題	交信かく乱剤導入による「かき」フジコナカイガラムシの発生抑制効果の実証		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 14 日	場所	西条市田野	
指導対象	かき栽培農家（２人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○かきの主要害虫であるフジコナカイガラムシに対し、交信かく乱用性フェロモン剤の防除効果を検証するため、現地実証園を設置し、本虫の発生果率を調査した。 ○本調査は、前年にフジコナカイガラムシの発生量が多かった２園（A、B）において、令和８年３月に試験区と対照区を設け、発生抑制効果や防除技術の有効性について JA 及びメーカーと連携し、実証試験として取り組んでいる。			
結果と今後	○調査の結果、A園において試験区・対照区ともに発生果率２％以下で極めて低い水準であったが、B園では対照区の発生果率 23.1%に対し、試験区では 6.7%と、本剤のフジコナカイガラムシに対する発生抑制効果が確認された。 ○今後、調査結果を JA 及びメーカーと共有するとともに、講習会等では生産者への周知を図り、管内において防除技術の定着と高品質果実の生産を推進する。			



フジコナコン設置時の状況



カイガラムシ寄生果実（対照区）



果実調査を行う普及職員

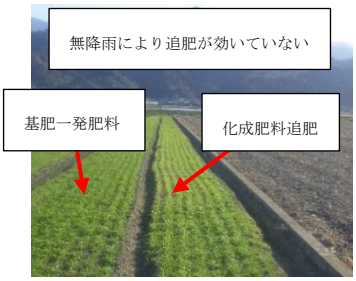
標　題	**令和９年産の麦作に向けた講習会を開催**		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 18 日	場所	JA えひめ未来西条あぐりセンター	
指導対象	JA えひめ未来麦栽培者（28 人）	連携機関	JA（えひめ未来、全農えひめ）	
普及指導内容	○当室は、はだか麦の栽培開始を前に講習会を開催し、前年の反省を踏まえて令和９年産に向けた栽培管理技術を指導した。 ○管内のカントリーエレベーターの一部では、令和８年産が春先の少雨の影響等を受け２等判定となったことから、収量及び品質向上に向け、その年の気象状況に即応した栽培管理が必要とされている。			
結果と今後	○講習会では、令和８年産の栽培状況を踏まえ、湿害対策、麦踏み、土入れ及び溝堀り作業等の基本技術の励行に加え、気象予測や病害虫情報に基づく播種及び防除の適期実施について、その必要性を説明した。 ○当室は、栽培期間中に２回の講習会を予定しており、気象や生育状況に基づく栽培管理の徹底を推進する。			



説明を聞く参加者



栽培管理の説明



８年産麦の状況（８年１月）

標　題	**農業女子が「食と農」に関する出前授業を開催**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和８年９月 11 日	場所	四国中央市立三島東中学校	
指導対象	さくらひめ四国中央会員（４人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	○当班は、職業選択を考え始めた中学２年生（111 人）を対象に、農業の魅力や作物の栽培技術の紹介を通じて、農業への関心を高めることを目的とし、農業女子が企画した出前授業を支援した。 ○２回の出前授業を計画しており、今回は、ねぎの栽培について動画で学習後、調製作業（皮むき）や播種・定植体験を実施した。			
結果と今後	○生徒からは、水やりの適切なタイミングに関する質問があり、会員が今後の水管理について回答していた。 ○次回は 11 月に実施する予定であり、会員が栽培したねぎと市販のカットねぎの食べ比べを行うとともに、メンバーの農業経営の紹介を行う。			





左：ねぎの調製作業に挑戦する生徒
右：播種・定植を指導する会員

標　題	**東予の花き・花木の魅力を発信する壁飾りづくり講習会を開催**		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 28 日	場所	県立丹原高等学校	
指導対象	青年農業者花き実践班（４人） 講習会参加者（一般市民）（34 人）	連携機関	愛媛県立丹原高等学校 西条地区青年農業者連絡協議会	
普及指導内容	○当室では、東予の花き・花木の魅力を広く発信し、日常的な消費拡大を図ることを目的に、青年農業者、丹原高校と連携し、一般市民を対象にした標記講習会を開催した。 ○講習会では、はじめに花き実践班から、東予地域の花き・花木産地を紹介した後、実践班のメンバーが栽培した花材を使って、スワッグづくりのポイントを解説した。			
結果と今後	○参加者らは、実践班のメンバーや丹原高校の生徒から、きれいに見せるための枝の配置などを熱心に習っていた。 ○参加者からは好評で、定期開催を望む声が多く寄せられるなど、地元産の花き・花木の魅力を発信する良い契機となった。 ○当室は、今後も、花き・花木のある暮らしが浸透するよう、需要を喚起する取組を進めていく。			





左：製作したスワッグを講評する実践班メンバー
右：参加者に助言する丹原高校の生徒

標　題	**新規栽培者を対象とした花木の研修会を開催**		機関名	東予地方局地域農業育成室 産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 30 日	場所	県西条第二庁舎 西条市内田野	
指導対象	新規就農者、花木生産者等（13 人）	連携機関	東予花木生産者ネットワーク	
普及指導内容	○当室は、花木を新たに導入する生産者を対象に、植付前の園地整備や品種選定のポイントについて学ぶ、第６回東予担い手ステップアップ研修会を開催した。 ○室内研修では、当室より花木の基本管理を説明した後、東予花木生産者ネットワークのメンバー５人が、花木導入の動機や重視するポイント等を発表した。 ○現地研修では、花木専業の生産者から、作業効率を考慮した園地整備の重要性や収益性を高める整枝せん定等、花木経営で成功するポイントについて説明を受けた。			
結果と今後	○参加者からは、花木を導入するうえで具体的な品目選定の話や経営計画に関する問題点のほか、定植後の管理の重要性について、改めて認識していた。 ○花木は管理の手軽さから急速に面積が拡大しているが、気候変動の影響などによる収益性の低下が課題になってきていることから、当室では、今後も適切な生産技術の普及に努める。			





左：室内研修
右：栽培状況に見入る参加者

標　題	さといも「優良種苗新増殖技術（親芋直接採取増殖法）」実証圃において収量調査を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 30 日	場所	今治市内各地（菊間、日高、高橋）	
指導対象	実証農家（３人）	連携機関	岩谷産業（株）、伊予農産（株）、JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算を活用し、生産者が優良種芋を低コストかつ短期間で生産できる新増殖技術「親芋直接採取増殖法」の実証を進めている。 ○省力化を目指し、発芽前の加温・加湿技術や機械定植に適した親芋切片重量、腋芽の長さ等に関する実証ほを市内３か所に設置しており、収量調査を実施した。			
結果と今後	○無病の親芋を分割した種芋から得られた収量は１株当たり平均 2,956g、個数は 41 個であり、慣行区（１株当たり平均収量 3,039g、個数 34 個）と比べ、収量は同等で孫芋の着生が多かった。 ○前年度に本技術で収穫した種芋を定植した区では、１株当たり平均収量 3,325g、個数 38 個で形状も良く、生育も旺盛で順調な状況であった。 ○今後も実証結果を基に協議会員と課題解決に取り組み、技術の確立と普及を進める。			





左：収穫量の調査
右：新技術で収穫した芋

標　題	いちご育苗後期の肥培管理と病害防除について巡回指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月３日	場所	今治市内各地（朝倉、富田）	
指導対象	富田いちご部会員（８人） 農事組合法人サポート中寺（２人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○９月下旬の定植に向け、育苗後半の適切な肥培管理及び病害防除を目的に巡回指導を実施した。 ○７月の巡回で炭疽病の発生が多く確認されたことから、防除状況を確認するとともに、硝酸イオン濃度を測定し、苗の生育に応じた肥培管理を指導した。			
結果と今後	○炭疽病は適切な防除により、ほとんどのほ場で発生が抑制されていた。 ○一方、多くの生産者で硝酸イオン濃度が低かったため、芽なし（芯止まり）株の発生防止に向けて追肥を指導した。 ○今後は定植までの間、健全苗確保のため肥培管理と病害防除指導を徹底する。			



新規就農者へのいちご育苗指導



苗の硝酸イオン濃度測定



農業法人への育苗指導

標　題	**効果的な鳥獣害対策に取り組むモデル集落の育成**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 16 日	場所	今治市玉川町鍋地	
指導対象	鍋地集落　農業者（６人）	連携機関	今治市農林水産課、今治市玉川支所	
普及指導内容	○鍋地集落では、水稲や野菜を中心にサルによる被害が発生しており、地域ぐるみで捕獲体制の構築とサル用大型捕獲檻(地獄檻)の設置に向け、協議が行われた。 ○効果的な餌の選定や捕獲後の止め刺しの方法について指導を行い、管内の優良事例を紹介した。 ○関係者は、檻設置場所を確認し、周辺環境の把握と檻設置の具体的なイメージを共有した。			
結果と今後	○集落代表者を中心に、大型捕獲檻の設置・管理に対して協力的な姿勢がうかがわれ、運用方法や役割分担について、前向きに意見交換が行われた。 ○集落からは、鳥獣害の捕獲技術や地域ぐるみの対策について、継続的な指導を求める声が寄せられた。 ○今後、10 月中に檻を設置するとともに、センサーカメラによるサルの出没状況調査や、集落内の環境整備と見回り活動を組み合わせた実践的な取組を進め、サル対策のモデル集落として育成し、普及を図る。			



集落住民との協議





大型捕獲檻設置予定場所の確認

標　題	**農業生産法人（株）ファーム咲創が農福連携に取り組む**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 25 日	場所	農業生産法人（株）ファーム咲創（今治市朝倉）	
指導対象	（株）ファーム咲創（３人）、エコステーションはるかす支援員及び利用者（５人）	連携機関	―	
普及指導内容	○当室は、（株）ファーム咲創と福祉就労支援施設「エコステーションはるかす」「エコステーション未来」との農福連携を推進するため、さといも収穫体験のマッチングを支援した。 ○この取組は、６月 25 日に開催した、農業者と福祉就労支援施設を対象とした課題解決研修会を契機としている。			
結果と今後	○体験マッチングは、９月 24 日に「エコステーション未来」、同 25 日に「エコステーションはるかす」が実施した。 ○両施設の利用者は、（株）ファーム咲創の倉庫において、さといもの若芽と土の除去、子芋・孫芋の手割り、付着する毛羽や根の除去作業を行った。 ○施設利用者は順調に作業を行い、約 30 分間で５キャリー分を処理し、10 月中旬以降に本格的な作業の実施に備えた。 ○当室は、今後とも農福連携の強化に向けて取組を推進する。			





左：芋の調製作業

右：芋の分割作業

標　題	**かんきつ栽培講習会を開催し、収穫期に向けた適正管理を指導**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年９月 16 日	場所	今治市上浦町（盛、井口、瀬戸集荷場）	
指導対象	かんきつ生産者（合計 90 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○当班は、かんきつの安定生産を図るため、上浦町の主要な３地区において、栽培講習会を開催し、これまでの気象推移や果実の生育状況、今後の栽培ポイントについて説明した。 ○７月中旬から８月の間は、気温が著しく高い状態が続き土壌の乾燥が進んだことから、糖度は平年よりも高く、９月の降雨の影響で酸は平年並からやや低い園地が多い傾向であること、通常の園地における果実肥大も平年並であり、順調に生育していることを説明した。 ○また、ミカンハダニ及びサビダニの発生が多く認められること、これからの秋雨で黒点病の発生が懸念されることから適切な農薬の散布を申し合わせたほか、品質管理においては着果数の最終調整や夏秋梢の適正な処理を徹底するよう指導した。			
結果と今後	○生産者からは、夏期における高温乾燥の影響を心配する声も聞かれたが、順調な生育を確認できたことから、今後の栽培管理に向けて意欲的な質問も多くあった。 ○「愛媛果試第 28 号」等の県オリジナル品種の育成者権の存続期間の延長について周知したところ、「今後も安心して栽培に取り組める」と前向きな意向が多く聞かれた。 ○当班は、引き続き、県オリジナル品種等の安定生産に向けた支援を行う。			
  **左：盛地区における講習会** **右：井口地区における講習会**				

標　題	**新規就農者がブランド柑橘「瀬戸の晴れ姫」の栽培に初挑戦**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年９月２日・７日	場所	今治市大三島町、上浦町	
指導対象	新規就農者（１人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○就農２年目となる新規就農者のかんきつ園地（20 か所、合計約 1.5ha）を巡回し、栽培品種や生育の状況、立地条件に応じた管理方法について指導した。 ○その中で、着果量が多く生育が良好な‘はれひめ’の園地を捉え、当班は、高単価が期待できる JA ブランドの「瀬戸の晴れ姫」に取り組むよう提案し、土壌水分の管理など今後の栽培ポイントを説明した。			
結果と今後	○新規就農者は、「瀬戸の晴れ姫」の栽培に挑戦するため、約 15a の園地を白色透湿性シートで全面被覆し、降雨を土壌に侵入させない節水管理技術により、果実品質を高める方法を学んだ。 ○「昨年度は一般栽培の‘はれひめ’として出荷したため安価であったが、これからはブランドかんきつとして手取の大幅な向上が見込めるため、栽培意欲も上がりやる気が出てきた」と、新たな栽培に向けて意欲的な声が聞かれた。 ○当班は、関係機関と連携し、このような新たなチャレンジを他の新規就農者や青年農業者協議会会員にも広げ、所得の向上を目指した支援を行う。			
  **【瀬戸の晴れ姫】** **園地指定による栽培で糖度 12 度以上を目標とした高品質な「はれひめ」** **左：栽培指導する普及職員** **右：被覆された白色透湿性シート**				

標　題	温暖化に対応したレモンの栽培管理を学ぶ		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和８年９月 10 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	かんきつ生産者（20 人）、関係者（５人）	連携機関	（株）いわぎ物産センター	
普及指導内容	○上島町特産のレモン販売や加工を手掛ける第三セクター（株）いわぎ物産センターでは、個人向けの一般販売のほか、独自の選果による優良果実をデパートや高級スーパー等にも販売し、特産レモンのブランドづくりと生産者の所得向上に貢献している。 ○今年産の本格的な収穫期を前に、生産者に対して出荷規格や注意点の周知とともに、近年における地球温暖化の影響と今後の栽培管理上のポイントについて指導を行った。			
結果と今後	○参加した生産者は、温暖化の影響で樹が過繁茂になり、病虫害の発生増加につながっている現状を聞き、適切な枝梢管理と病害虫防除の必要性を再認識していた。 ○今後も現地巡回を中心とした指導を継続し、特産レモンの生産拡大に向けた支援を行う。			



出荷説明会に参加した生産者

標　題	低コスト環境測定機器による実証を開始		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月１日	場所	今治市朝倉	
指導対象	冬春トマト生産者（２人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○冬から春栽培の施設野菜においては、環境測定機器から得られるデータを踏まえて管理することにより、生産性の向上が期待されるが、機器が高額であることや一定のノウハウを必要とすることから、導入に伴う負担が大きい。 ○そのため、安価に製作できる低コスト環境測定機器を用いた実証を行うため、設置の仕方、取得データの確認及び活用方法について指導した。			
結果と今後	○低コスト環境計測機器を各生産者のハウスに１台ずつ設置し、環境測定を開始した。 ○今後、当室では、生産者が自らハウス内環境の測定や作物の生育状況を把握することにより、栽培環境の最適化及び生産性、並びに品質の向上につなげられるよう、継続的に指導を行う。			





左：低コスト環境測定機器の設置作業

右：設置した機器

標　題	**バターナッツカボチャの追肥による収量の比較調査**		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 14 日	場所	今治市乃万	
指導対象	バターナッツカボチャ生産者（１人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○バターナッツカボチャの単収向上を目的に、５月から追肥の施用方法の違いによる収量の比較実証に取組んできた。 ○実証には、追肥の施用量と回数を組み合わせた複数の区を設定し、７月 16 日から９月 14 日の間に４回、収穫時に合わせて収量調査を行った。			
結果と今後	○調査の結果、着果数・総重量は追肥窒素４kg/10a の２回施用区で最も高く、１果重の平均値は追肥窒素２kg/10a の３回施用区で最も高くなった。 ○追肥の施用方法の違いにより収量及び生育差が見られたため、今後は収益性の確認とその調査結果を踏まえ、生産者とともに適切な追肥の施用方法を検討する。			





左：収穫したバターナッツ
右：生産者と調査する普及職員

標　題	**労働力確保の取組を生産者へ推進**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月２日、７日、８日	場所	東部営農支援センター、南部営農支援センター、城北支所、中島支所	
指導対象	生産者（43 人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○多様な労働力確保の取組を生産者に周知するため、説明会を開催した。 ○当室からは、昨年度構築した有償ボランティア「中予農業応援ボランティア」の仕組み、利用手順及びマッチングアプリの使用方法など詳しく説明したほか、農福連携の概要、管内事例及び利用手続きを紹介し、理解促進と活用推進を図った。 ○あわせて、同 JA からは「無料職業紹介所（アルバイト）」の説明があった。			
結果と今後	○参加者からは、「有償ボランティアが一般の人に生産現場を知ってもらう機会となり、将来的な収穫物や商品の購入にもつながるのではないか」といった前向きな意見があるなど、活発な質疑応答が行われた。 ○今後は、生産者が利用する際の具体的な手続きやアプリ操作方法等の支援を実施し、利用者の増加を目指す。			





左：有償ボランティア説明

右：農福連携説明

標　題	**枝物の安定生産に向けた生産者等への集団指導**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月２日、11 日	場所	JA えひめ中央研修センター、 JA 松山市川上支所	
指導対象	JA えひめ中央研修生（12 人） JA 松山市ユーカリ専門部（30 人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○枝物類の新規栽培者の確保と単収アップを目的に、新規品目や栽培技術等を指導。 ○研修生には、ユーカリ・グニーや新規品目の栽培特性や出荷時期等について情報提供を行い、新規取組を促進した。 ○部会員には、ユーカリ出荷時の注意点や、仕立ての違い（１本、２本、４本）が収量に及ぼす影響について、実証結果をもとに説明した。			
結果と今後	○研修生からは、「新規品目の有益な情報が得られた」「果樹や野菜との複合経営に適した品目はどれか」などの意見があり、枝物への関心を一層高めた。 ○ユーカリの実証結果において高い増収効果が確認された「４本仕立て」の普及推進に努め、産地の更なる単収向上を目指す。			



JA 松山市ユーカリ出荷目合わせ会



実物を確認しながら目合わせを実施



主枝４本に仕立てたユーカリ

標　題	**研修生が就農に向けた資質向上を図る**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月３日、16 日	場所	松山市農業指導センター、 JA 松山市北伊予支所	
指導対象	研修生等（延べ 59 人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）、松山市農業指導センター、えひめ農業未来カレッジ	
普及指導内容	○研修時間の確保と内容の充実を図るため、管内各研修施設が連携した研修の取組を進めている。 ○松山市担い手育成研修会（9/3）においては、同指導センター研修生に加え各 JA 研修生にも参加を呼びかけ、当室は新規就農者支援制度や農業経営の講義を行った。 ○農業機械研修会（9/16）では、各研修施設の研修生を参集し、ひめカレ担当者は、農業機械のメンテナンス方法や農作業安全等の指導を行った。			
結果と今後	○研修生からは就農に向け、活用予定の補助金等について活発に質問があった。 ○また「なぜ機械の部位で使用オイルが異なるのか」「刈払機の保管に際し、燃料の使い切り頻度はどうか」などの質問があり、所有機械のメンテナンスに活かそうとしていた。 ○今後は、農業簿記について合同研修を行うこととしている。			





左：支援制度等についての講義

右：研修で使用する機械を用いたメンテナンス講習

標　題	**いちご生産者が花芽検鏡の技術を学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月７日	場所	東温市北吉井	
指導対象	いちご生産者（５人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○いちご若手生産者グループ「だんだんの会」の技術力向上を図るために、花芽分化の生理や検鏡技術習得に係る第４回勉強会を実施した。 ○適期定植には、花芽分化の有無の確認が必要なことから、検鏡手法や花芽分化ステージと葉数の関係等について説明した。 ○また、葉柄の硝酸態窒素濃度を試験紙で測定し、花芽形成誘導に必要な肥効の低下について、その状況を確認した。			
結果と今後	○生産者は、花芽確認の重要性について理解を深めるとともに、持ち寄った苗の検鏡を自ら行い、繰り返しの実践により概ね技術習得できた。 ○硝酸態窒素濃度の測定値が極端に低かった苗については、活性が低下して花芽分化が遅れるため、液肥を施用するよう指導した。 ○引き続き、ほ場での花房出蕾状況を把握していく。			





左：顕微鏡で花芽を確認

右：硝酸態窒素濃度を測定し数値を確認

標　題	**女性農業者が農業機械や柑橘栽培技術について学ぶ**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 15 日、28 日	場所	えひめ農業未来カレッジ、みかん研究所	
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」（11人）	連携機関	えひめ農業未来カレッジ、みかん研究所	
普及指導内容	○女性農業者のスキルアップを目的に、ひめカレでの農業機械研修会及びみかん研究所への視察研修を実施した。 ○研修会では、ひめカレから農作業安全や刈払機の注意事項及びメンテナンス方法の説明を受けたほか、ラジコン草刈機の実演が行われた。 ○視察研修では、同研究所からみかんの浮皮対策、シートマルチ栽培、園内道整備及び間伐の有効性などを室内研修した後、所内ほ場にて栽培管理を実習した。			
結果と今後	○研修会では、「農業機械のメンテナンス方法を学ぶ機会が少ない中、とても有意義だった」「従業員にも教えていきたい」といった声が寄せられた。 ○視察研修では、「新たな栽培技術などを学び勉強になった」との意見が出るなど、高品質生産技術等の習得につながった。 ○今後も、多様な研修等を企画し、女性農業者の更なる資質向上を図る。			





左：刈払機のメンテナンス方法を学ぶ

右：甘平の栽培管理について説明を受ける

標　題	**農業女子グループが地域イベントに参画**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 19 日	場所	中島文化会館	
指導対象	姫たちばな会員（３名）	連携機関	―	
普及指導内容	○松山市中島の農家女性で組織する「姫たちばな」(事務局：当室) は、地域イベント「昭和なかじま横丁」に参画し、加工品販売と地域農業の魅力発信を行った。 ○会場は、昭和時代の写真・家電・雑貨の展示が行われ、昭和時代にタイムスリップしたかのような雰囲気に包まれる中、会員らは、「愛果 28 号 100%ジュース」やラムネを販売してイベントを盛り上げた。			
結果と今後	○今回のイベント参加は、これまで同組織が行ってきた地域の魅力発信活動等が評価されたもので、活動範囲の拡大により地域での認知度が高まった。 ○今後は、先進地視察等を計画しており、更なる資質向上を支援する。			



ブース外観



金だらいで冷やす



懐かしグッズとともに

標　題	**中島青年農業者が他地区の仲間と交流**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 29 日	場所	松山市中島大浦	
指導対象	中島青年農業者協議会会員（７人）	連携機関	松山地区青年農業者連絡協議会	
普及指導内容	○松山市及び東温市の青年農業者 16 人を交えた研修会を開催した。 ○当室は中島地域の概要のほか、９月下旬から翌年５月上旬まで収穫・出荷が続くかんきつ農業の特徴を紹介した。 ○併せて、会員らが栽培する「愛媛果試第 28 号」「愛媛果試第 48 号」「せとか」などの園地を巡回し、園主が栽培状況を説明した。			
結果と今後	○参加者からは、「愛媛果試第 28 号」の夏秋枝管理や「せとか」の苗木育成に係る施肥のポイントなどへの質問が相次ぎ、関心の高さがうかがわれた。 ○昼食会では、かんきつ以外の品目も含め、栽培へのこだわりや考え方など活発な意見交換を行うことで、意欲の高揚が図られた。 ○今後、同協議会では先進地視察やせん定技術研修を予定しており、会員の更なる資質向上に向けて支援していく。			





左：会長による歓迎あいさつ

右：園主の解説に耳を傾ける参加者

標　題	**女性農業者の感性を活かした商品開発と経営参画支援**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年８月６日、20 日、27 日、 ９月４日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	女性農業者組織「葉れるや」会員 （９人）	連携 機関	（一社）愛媛まさき町観光物産協会、蜜彩 （南江戸食品開発（株））	
普及指導 内容	○当班は、女性農業者の経営参画とともに、はだか麦の高付加価値化に向けて多角的なアプローチを展開した。 ○具体的には、麦わら細工の創作研修を企画し、商品化へのスキルアップを後押しした。 ○また、物産協会や加工販売企業を交えた検討会を主導し、はだか麦の魅力発信や効果的な販促方法について協議を重ねた。			
結果と 今後	○会員からは、「式典で身に着ける麦わら細工のコサージュとして売り込みたい」といった前向きな発言があり、商品開発の意欲向上につながった。 ○10 月には「大人の体験型イベント」や「マルシェ経営」の研修を予定しており、更なる意欲向上につなげる。			



オンラインで創作研修



会員の創作品の数々



はだか麦 PR を検討

標　題	**認定農業者がミョウガ培地再生工場を視察**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和８年９月１日	場所	高知県須崎市	
指導対象	伊予地区農業経営者連合協議会会員 (19 人)	連携 機関	―	
普及指導 内容	○当班では、資材高騰に苦しむ同協議会会員の経営改善に向け、安価で良質な土壌改良資材として、ココヤシピートモス培地の再生技術に着目し、再生工場の視察を企画・主導した。 ○当日は、連作障害を防ぐ殺菌や肥料成分の除去といった先進的な再利用工程の説明を受けるとともに、実際に製品を手に取って品質を確認した。			
結果と 今後	○会員は、野菜や果樹栽培への具体的な利用方法などを熱心に聞き取っていた。 ○今後は、現地ほ場での実証を通じて費用対効果を検証し、各会員の経営品目に応じた最適な資材導入を支援する。			





左：説明を熱心に聞く参加者

右：再生ピートモスを手に取る参加者

標　題	そらまめ産地強化に向けた令和９年産への取組を開始		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 12 日	場所	伊予市及び松前町内各地	
指導対象	そらまめ生産者（６戸）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○令和９年産そらまめの栽培開始に伴い、地方局予算「そらまめ産地強化事業」を活用し、単収向上を目的とした技術実証を開始した。 ○今年度は、昨年度の実証で効果が確認された「マルチ種類の変更」と「株間の拡張」の再現性検証に加え、新品種の栽培試験にも取り組む。 ○９月 12 日以降、各生産者が催芽・冷蔵処理を開始したことから、新品種と既存品種の催芽率等を調査した。			
結果と今後	○新品種「多空の春」、「陵西一寸と打越一寸の交雑種」は順調に催芽が完了し、既存品種と催芽率に差は見られなかった。 ○今後は 10 月中旬以降の定植に向けほ場準備が進むことから、引き続き巡回指導や栽培実証等に取り組み、そらまめ産地の維持・発展を図る。			



催芽したそらまめ

標　題	AI で土壌水分計文字盤を読み取りデジタルデータに変換		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 18 日	場所	松山市祝谷、浅海	
指導対象	実証農家（３人）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）、農林水産研究所	
普及指導内容	○「甘平」の裂果と関係の深い土壌水分変化を把握するため、トレイルカメラで土壌水分計の文字盤を一定時間ごとに撮影しているが、3,000 枚を超える膨大な画像となることから、AI による自動読み取りの試みを始めた。 ○AI プログラムは、農林水産研究所の研究員が作成したもので、文字盤が写った大量の画像から数値と日時を読み取り、短時間で CSV データに変換できる。			
結果と今後	○画像の文字盤は、AI がこれまで学習していないデザインであったことから、読み取りエラーが多発した。 ○読み取り精度を向上させるため、プログラムの最適化と AI の追加学習に取り組む。			



樹冠下に土壌水分計とトレイルカメラを設置



土壌水分計の文字盤



農林水産研究所研究員からAI 操作方法を学ぶ

標　題	**伊達柿の収穫支援を広げるため農福連携研修会を開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 29 日	場所	JA えひめ南三間町支所	
指導対象	伊達柿生産者（５人）	連携機関	JA えひめ南、宇和島市、(株) K.MINAMOTO、NPO 法人結の会「ゆいの里」	
普及指導内容	○昨年度、障がい者就労施設の支援員と利用者を対象に、三間町で栽培している加工用渋柿（伊達柿）における一斉収穫体験を実施したところ、一連の作業が問題なくできることを確認した。 ○このことから、生産者と障がい者就労施設の相互理解を深めるとともに、この取組を広げるため、農福連携促進研修会を開催した。 ○新たに取り組む意欲がある生産者５人に対し、就労施設の支援員が昨年度の収穫体験の所感を、また、JA が実際に取り組んだ場合の注意点等について説明した後、意見交換を実施した。			
結果と今後	○生産者からは作業委託を想定した質問が、就労施設からは収穫以外の作業内容に興味を示す意見が出されるなど、前向きな意見交換が行われた。 ○今後、三間町では、かきの生産量の増加が見込まれるため、生産者と障がい者就労施設とのマッチングを継続し、収穫作業の労働力不足解消を目指す。			




左：園地で実際に収穫を体験（昨年度実施）
右：研修会で関係者が意見を交わす

標　題	**認定農業者組織が鳥獣害対策に係る研修会を開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 17 日	場所	南予地方局、鬼北農業指導班 鬼北町三島	
指導対象	宇和島市認定農業者連絡協議会会員(21 人)	連携機関	宇和島市、鬼北町、農業振興課	
普及指導内容	○会員からの鳥獣害対策に関する学習の要望を受け、研修会の企画・調整を支援した。 ○研修会では、当室を含む関係機関が、各種防止対策のメリット・デメリット、設置費用、適切な設置方法について、管内での実例を交えて解説した。 ○あわせて、利用可能な補助事業についても説明を行い、積極的な利用を促した。 ○さらに、鬼北町でのスマート機器(捕獲通知機器、ICT を活用した檻)を活用した捕獲現場や、ペットフード加工施設を視察した。			
結果と今後	○会員からは、高周波音の忌避効果や、補助事業の要件・申請手続きに関する質問が多く寄せられるなど、活発な意見交換が行われた。 ○今後も、認定農業者の経営管理能力向上につながる活動を支援していく。			





左：高周波音を事例に説明する普及職員
中：柵の適切な設置方法を説明するえひめ地域鳥獣害管理専門員
右：有害鳥獣処理施設の説明を受ける会員

標　題	**安価なハウスサイド自動巻上機の導入による環境制御技術の実証**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和８年９月 16 日	場所	鬼北町父野川下	
指導対象	施設きゅうり農家（１人）	連携機関	―	
普及指導内容	○今年度当初に導入・実証した環境モニタリング一体型自動換気装置は、高機能であり高い評価を得ているが、高価格であることから導入をためらう生産者も多くあった。 ○このため、当班では、より安価に設置できる同様の設備を検討し、ハウスサイド自動巻上装置とスマホで確認できる温湿度計は一体型ではないものの、モニタリングと気温により環境制御技術が可能な、従来の 1/5 程度の価格の装置を開発した。			
結果と今後	○導入した農家からは、「朝晩、順調に開閉しており、効果があれば全ハウスに導入したい」と、高評価を得ている。 ○今後は、当装置の耐久性を確認した上で、高価格だが高機能である開閉装置と、今回実証している安価な装置の２機種を生産者の実情に合わせて地域全体へ普及し、適切な温度管理の実現により施設きゅうりの高品質安定生産を目指す。			





左：設置したきゅうりハウス
中：コントローラー
右：巻上装置の取付

標　題	**ラジコン防除ロボット実演会を開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和８年９月 29 日～30 日	場所	松野町・鬼北町内各地	
指導対象	JA えひめ南野菜部会鬼北支部会員ほか（延べ 27 人）	連携機関	JA えひめ南、松野町、鬼北町	
普及指導内容	○夏場の防除作業は高温下で防除衣を着用して行うため、熱中症や農薬被ばくの危険性など多くのリスクがある。 ○そのリスクを回避し、省力化も図れるラジコン防除ロボットの実演会を、管内の抑制きゅうりハウス４ケ所で開催した。 ○実演会では、きゅうりの株元や収穫ゾーン、生長点に感水紙を設置し、散布後の薬剤付着状況及び散布時間も確認した。			
結果と今後	○参加者からは「構造がシンプルで農薬散布が確実に行えるのかと半信半疑だったが、実演を見て購入したくなった」「JA 野菜部会で共同購入できないか」など、非常に関心が高く、前向きな意見が聞かれた。 ○防除時間は手散布に比べ 1/3 程度であり、葉裏にも薬剤が十分に付着しており、実用性は高い。 ○今後は、補助事業の活用も見据え、生産者の導入を支援する。			





左：防除ロボット説明
中：噴霧の状況
右：実演会

標　題	**郷土料理の調理技術伝承に向けて**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年９月 24 日	場所	愛南町山出地区	
指導対象	愛南生活研究協議会（８人）	連携機関	－	
普及指導内容	○当協議会は、郷土料理の調理スキルの向上を目的に、協議会としては初の試みとなる、調理技術を教え合う「技術継承の場」を設けた。 ○調理経験豊富なベテラン会員が講師となり、未経験の会員へ「炭酸まんじゅう」や「巻きはんべい」等の固有技術を実践指導した。 ○加えて、調理のポイントや注意点に関する質疑応答を実施し、地域伝統の「味」の確実な継承を図った。			
結果と今後	○「再現できる自信がついた」「伝承活動に活かしたい」といった声が相次ぎ、未経験会員の技術向上とともに、組織内の連携も再強化され、郷土料理を次世代へ引き継ごうとする会員、組織の主体的な意欲が高まった。 ○本研修で技術を習得した会員は、令和９年２月に開催予定の食文化普及活動において新たに担当となって、小学生等へ指導する。 ○当班は、今後も「地域全体の食文化の定着」や「食育を通じた多世代交流の創出」を継続的に実施する組織活動を支援する。			





右：完成した「炭酸まんじゅう」
中：「巻きはんべい」の調理
左：活発な質疑応答

標　題	**青年農業者が省力化・多角的経営に向け事例調査を実施**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和８年９月 29 日～10 月１日	場所	広島県東広島市、福山市、尾道市ほか	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会（12 人）	連携機関	佐藤農機鋳造(株)、JA 広島果実連(株)、広島県立総合技術研究所ほか	
普及指導内容	○会員の農業経営では、近年、労働力不足と単一品目「河内晩柑」依存のリスクを危惧する声が多くなっているため、協議会が主催する先進事例調査の企画（省力化機械・多角的経営・新ブランド構築）・運営を支援した。 ○「河内晩柑」の自動洗浄機導入効果や、瀬戸田町における「エコレモン」のブランド戦略、文旦系新品種「瑞希」の栽培・マーケティング手法を現地で調査した。			
結果と今後	○実機の見学により、真剣に導入を検討するなど、省力化と作業効率化への意識が飛躍的に高まった。 ○また、ブランド化による付加価値のメリットや新品種導入によるリスク回避など、複数品目の経営に向けた実践的な意欲が醸成された。 ○本研修で得た知見を協議会内で共有し、若手農家による新たな「高収益・省力化モデル」の実証と地域への波及を支援することで、愛南地区におけるかんきつ農業の経営体質強化と、持続的な地域農業の発展を目指す。			


水洗機の見学


エコレモン栽培について聞取り


新品種「瑞希」の試食

標　題	**来年のうめ安定生産に向けて夏季管理を徹底！**		機関名	南予地方局産地戦略推進室 南予地方局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 18 日	場所	松野町延野々	
指導対象	松野町梅生産者（４人）	連携機関	松野町梅振興会、（株）松野町農林公社、鬼北農業指導班	
普及指導内容	○令和７年産収量が目標の７割にとどまったことから、翌年の着果量確保を目的に夏季の樹体管理の重要性を説明し、徒長枝の切除を実演した。 ○あわせて、土壌診断結果に基づく土づくりを指導し、９月下旬の施肥が翌年の充実した花芽確保につながることを説明した。			
結果と今後	○今後は、園地巡回による樹体管理を徹底するとともに、樹勢回復に向けて冬季の縮伐や整枝せん定等の講習会を開く。 ○生産者からは、「土壌 EC 値が低いことから施用量を増やすべきか」との質問が出るなど、肥培管理の重要性を再認識しており、堆肥投入の啓発で土づくりを進める。			





左：安定生産を目指した徒長枝切除講習
右：花芽確保・充実のための肥培管理を指導

標　題	**かんきつの日焼け軽減効果を確認**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和８年９月 30 日	場所	伊方町仁田之浜	
指導対象	「愛媛果試第 48 号」生産者（１人）	連携機関	JA にしうわ	
普及指導内容	○当室では、夏季における異常高温等の影響に対応するため、気候変動適応産地づくり総合対策事業(R８～)の一環として、「愛媛果試第 48 号」を対象に、遮熱シートの展張と炭酸カルシウム剤の散布による日焼け軽減効果を実証している。 ○今年産のかんきつは、裏年の周りではあるが着果量が多く、また７～８月のかん水作業に追われ摘果作業が遅れ気味の農家が多く、例年に比べ日焼け果は多い傾向である。			
結果と今後	○慣行区の日焼け発生率 38%に対して、遮熱シートを展張した区では０%、炭酸カルシウム剤を散布した区では８%と日焼けの発生を軽減する効果が確認できた。 ○今後、同技術の現場普及を図るとともに、遮熱シートのより実用的な展張方法や、炭酸カルシウム剤の効果的な散布回数・濃度を検証し、管内により適した日焼け対策技術の確立を目指す。			







左：日焼けが発生した果実
中：炭酸カルシウム剤散布により日焼けが軽減
右：遮熱シートを展張したハウス

標　題	**農事組合法人やさらいの新たな営農計画策定に向け、関係者が一致団結**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年９月９日	場所	大洲庁舎	
指導対象	農事組合法人やさらい（８人）	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○基盤整備の進む大洲市野佐来地区において、集落農業の体制構築を目指す同法人の経営安定化を支援するため、県・市・JA の担当者が参集し、今後の支援方針などについて協議した。 ○当班では、同法人を集落営農の地域モデルに位置付け、高収益品目の導入や営農計画の見直しなどについて支援を行っており、会議において、関係者が連携を強化し、儲かる法人経営を目指すことを申し合わせた。 ○さらに、同法人の構成員に対し、法人経営の専門家を交えた経営相談を実施し、今後の運営方針や生産計画等を協議するなど、新たな営農計画の策定を支援した。			
結果と今後	○今後は、令和 11 年度の基盤整備事業の完了を見据え、工事の進捗に応じた農地活用とともに、組織運営体制の強化や担い手の確保育成、事業継承等の課題解決に向けて関係機関と連携支援に取り組む。			





左：法人の支援方針について関係者で協議
右：法人経営の専門家と経営相談

標　題	**青年農業者が学び合う現地交流会を開催**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和８年９月 30 日	場所	大洲市上須戒地区、南久米地区	
指導対象	大洲喜多地区青年農業者連絡協議会員（５人）	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○同協議会は、お互いの生産現場や経営状況を把握することで、品目や地域の垣根を越えた相互研鑽を図ろうと、会員が経営する観光なし園と牧場（肉用牛）で現地交流会を開催した。 ○この交流会は、多様な知識や経験を共有することで、青年農業者の更なる経営発展や地域農業の活性化につなげることがねらいである。			
結果と今後	○交流会では、観光なし園として留意すべき管理方法やなしの品質向上対策のほか、牧場経営で課題となっている飼料の配合方法などについて、活発な質疑が交わされるなど、参加者の農業経営に対する意識の高さがうかがわれた。 ○参加者からは、次回の現地交流を期待する声も多く、今後はこの取組を継続・発展させることにより会員の資質向上につなげる。			





左：観光梨園の経営について意見交換
右：牧場経営について意見交換

標　題	**新規就農者の早期定着に向け、スキルアップをサポート**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和８年８月 21 日～９月 24 日（14 日間）	場所	西予市内各地	
指導対象	経営開始資金受給者等新規就農者（54 人）	連携機関	西予市、JA（にしうわ、ひがしうわ）	
普及指導内容	○当班は、新規就農者の早期の経営安定と定着促進を目的として、経営開始資金を受給する就農３年目までと交付終了後５年目までの農業者を対象に、現地巡回による個別面談を実施した。 ○面談では、決算書等の書類確認による経営状況や、ほ場巡回による営農状況の把握のほか、今後の経営展開に係る意向などを確認するとともに、栽培技術や経営改善に向けたアドバイスを行った。			
結果と今後	○新規就農者の栽培技術は着実に向上しており、経営状況も概ね順調であった。 ○また、面談では、規模拡大や新たな機械・設備導入の意向のほか、ふるさと納税返礼品など新たな販路の検討など、前向きな意見や具体策の相談があり、農業経営の安定化に向けた高い意欲がうかがわれた。 ○当班は、担い手の育成に向けて、今後も関係機関と連携し、新規就農者の栽培技術や経営管理能力のスキルアップを支援する。			





左：個別面談で経営状況を確認

右：ほ場で営農状況を確認

標　題	**西予いちごの定植始まる**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和８年９月３日～	場所	西予市宇和町、野村町	
指導対象	JA ひがしうわいちご部会員ほか(12 人)	連携機関	JA ひがしうわ	
普及指導内容	○当班は、いちごの定植に先立ち、苗の花芽分化調査を実施した。 ○この調査は定植時期を決める目安となり、いちごの生産量に直結するため、重要な作業と位置付けられており、毎年実施している。			
結果と今後	○夏季の高温により花芽分化の遅延が懸念されたものの、９月上旬から中旬にかけて花芽の分化が確認されたことから、管内では９月３日から順次、いちごの定植が始まり、例年並みの順調なスタートとなった。 ○当班では、今後も関係機関と連携し、いちごの安定生産に向けて定期巡回や研修会を実施することとしている。			





左：いちご定植状況

右：花芽分化調査の様子

【花芽分化調査】
・顕微鏡で苗の生長点を観察し、花が咲く準備ができているかを確認する。
・花芽が未分化の状態で定植すると、生育の遅れや減収につながる。

標　題	篤農家から栽培技術を学ぶ ～「媛小春」秋季現地研修会を開催～		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和８年９月 29 日	場所	八幡浜市川上地区、真穴地区	
指導対象	媛小春生産者（16 人）	連携機関	「南予の媛小春」魅力アップ協議会	
普及指導内容	○県オリジナル品種「媛小春」のヒリュウ台苗木の導入は着実に拡大しているものの、初期生育が緩慢であることが問題となっている。 ○ヒリュウ台媛小春の早期成園化による生産拡大と連年安定生産を目的に、「南予の媛小春」魅力アップ協議会が開催する現地研修会を支援した。 ○研修会では、２人の篤農家がヒリュウ台の栽培管理と媛小春における２本植え栽培について説明し、当室からは生育調査結果を基に果実品質等の傾向を報告した。			
結果と今後	○参加した生産者からは、「媛小春」は植付け初期の生育に気を付けることが重要であると感じた」「２本植え栽培は非常に興味深く、これからどうなるのか気になる」などの意見があった。 ○今後は、実証試験の調査を通じて安定生産技術の確立を進めるとともに、「媛小春」の魅力を生かした PR 活動や販売支援に努める。			



篤農家による説明



２本植えヒリュウ台苗木

【２本植え栽培】
隔年結果を改善するために、２本の樹を約 20cm の間隔で植え、２本の樹が交互に果実を実らせるようにすることで、安定した収穫が期待できる。

標　題	**いちご花芽検鏡講習会の開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和８年９月 10 日	場所	農林水産研究所	
指導対象	若手普及職員等（20 人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○いちごの花芽検鏡は、定植時期や出蕾・開花・収穫時期を予想し、適切な栽培管理を行うために重要であり、普及職員が具備すべき技術と位置付けられる。 ○そこで、当グループは、若手普及職員等を対象に花芽検鏡に係る技術力の向上を図るため、農林水産研究所研究員の協力を得て、標記講習会を開催した。			
結果と今後	○農林水産研究所研究員から、花芽検鏡作業の意義と定植後における管理ポイントのほか、検鏡の手順について実演を通じた解説があった。 ○若手普及職員等は班ごとの実習を通じ、「習熟者から指導を受けながら検鏡作業を行ったので、コツが掴めた」と感想を述べていた。			





左：供試苗を示し手順を説明する農水研研究員

右：班ごとに検鏡する参加者

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市南大門町2丁目5番地1 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町久万 571-1 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543